

令和7年度

教職課程

自己点検・評価報告書

神戸学院大学

令和8年6月

神戸学院大学 教職課程認定学部・学科、研究科（免許校種・教科）一覧

<学部・学科>

区分		中学校教諭 一種免許状	高等学校教諭 一種免許状
法学部	法律学科	社 会	地理歴史 公 民
経済学部	経済学科	社 会	地理歴史 公 民
経営学部	経営学科	社 会	公 民
人文学部	人文学科	社 会 国 語 英 語	地理歴史 公 民 国 語 英 語
心理学部	心理学科		公 民
現代社会学部	現代社会学科	社 会	公 民
	社会防災学科	社 会	公 民
グローバル・コミュニケーション学部	グローバル・コミュニケーション学科 英語コース	英 語	英 語
総合リハビリテーション学部	社会リハビリテーション学科	社 会	公 民 福 祉
栄養学部	栄養学科 管理栄養学専攻	栄養教諭一種免許状	

< 研究科 >

区分		中学校教諭 専修免許状	高等学校教諭 専修免許状
法学研究科	法学専攻 修士課程	社 会	公 民
	国際関係法学専攻 修士課程		
経済学研究科	経済学専攻 修士課程	社 会	公 民
	経営学専攻 修士課程		
人間文化学研究科	人間行動論専攻 修士課程	社 会	公 民
	地域文化論専攻 修士課程	社 会 国 語 英 語	地理歴史 国 語 英 語

栄養学研究科	栄養学専攻 修士課程	栄養教諭専修免許状
--------	---------------	-----------

## 大学としての全体評価

本学は1966年創立以来、専門教育により有為な人材を輩出するとともに、中等教育の教員養成にも注力してきた。現在、10学部13学科、8研究科を有し、学生数11,000人余を数える文理融合型総合私立大学へと発展してきたが、うち9学部、4研究科で教職課程を開設している。

2013年度には教職教育センター及び教職教育サポート室を開設し、教職指導をより充実させた。小学校、中学校、高等学校教員経験者を指導員として配置し、教職課程を履修する学生の細やかな指導にあるとともに、教員を目指す学生のために模擬授業練習会や教員採用試験対策講座などを実施しているところである。さらに、「教職教育センタージャーナル」の発行をとおして、非常勤講師を含めた教員の教育・研究の質の向上を図っている。

教職課程の運営については、教職教育センターのもとに教職教育センター委員会及び教職課程小委員会を設け、教職課程に関する事項について審議・決定するとともに、教職課程の具体的な運用と課題について議論をする体制を整えている。本学では、全学の内部質保証体制の一環として、全学中期行動計画の中で教職教育センターが策定した実行計画の実施状況に関して、同センターの下に設置される教職教育センター自己点検評価委員会が自己点検・評価を行ってきており、本報告書はその結果に基づき、一般社団法人全国私立大学教職課程協会が作成した「教職課程自己点検評価基準」の評価項目を参考に作成した。

本学教職課程の概要と特徴についての評価は次のとおりである。

2025年度には、教職課程履修者数は435名を数えており、うち人文学部が186名（約42.7%）を占め、法学部70名、現代社会学部45名、経済学部40名、栄養学部25名などが続いている。卒業生中の教員免許状取得者延数は、中学校計62名、高校計93名、栄養計12名となり前年度から23名の増となっている。また、教員免許取得者実数においても87名と、前年度から10名の増となっており、一定の安定性を保っていると評価されるが、今後一層の発展を図りたい。

本学は、現在の教職課程内容やキャリア支援の在り方を一層充実させるよう、学部・研究科における教育と、有瀬キャンパス（KAC）・ポートアイランドキャンパス（KPC）それぞれに設置する教職教育サポート室の活動を両輪として教育人材養成を進めており、両者の協働により円滑な人材養成が行われている。

また、現任教員である本学卒業生が、教員採用試験に際して必要な知識や技術についてまとめた冊子をもとに、本学教員ならびに教職教育サポート室指導員が作成した「教職ワークブック」を在学生在が活用するといった取り組みを行った。その結果、教職課程を履修する学生間で知の循環を図ることができた。このような卒前教育に加えて、高度専門人材の育成を促進するため、「兵庫教育大学大学院学校教育研究科指定校推薦制度」を積極的に活用するよう学生に働きかけ一定の実績を挙げている。

今後も有為な教育人材の育成に向けて力を尽くしていきたい。

神戸学院大学

学長 備酒 伸彦

## 目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検評価	6
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	6
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	9
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	13
III	総合評価	16
IV	「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	17

## I 教職課程の現況及び特色

### 1 現況（令和7年5月1日現在）

(1) 大学名：神戸学院大学

(2) 学部名：法学部、経済学部、経営学部、人文学部、心理学部、  
現代社会学部、グローバル・コミュニケーション学部、  
総合リハビリテーション学部、栄養学部

研究科名：法学研究科、経済学研究科、人間文化学研究科、栄養学研究科

(3) 所在地：

ポートアイランド第1キャンパス：兵庫県神戸市中央区港島1-1-3

(法学部、経営学部、現代社会学部、グローバル・コミュニケーション学部、法学研究科)

有瀬キャンパス：兵庫県神戸市西区伊川谷町有瀬 518

(経済学部、人文学部、心理学部、総合リハビリテーション学部、  
栄養学部、法学研究科、経済学研究科、人間文化学研究科、栄養学研究科)

(4) 学生数及び教員数

(令和7年5月1日現在)

#### 学生数

学部・研究科	教職課程履修者数※	学生数
法学部	70名	1,985名
経済学部	40名	1,483名
経営学部	18名	1,532名
人文学部	186名	1,252名
心理学部	5名	644名
現代社会学部	45名	947名
グローバル・コミュニケーション学部	23名	※※ 558名
総合リハビリテーション学部	21名	※※ 317名
栄養学部	25名	※※ 346名
法学研究科（修士課程）	0名	9名
経済学研究科（修士課程）	0名	7名
人間文化学研究科（修士課程）	2名	15名
栄養学研究科（修士課程）	0名	5名

※教職課程履修者数は作成時点（令和8年3月12日）の履修者数

※※グローバル・コミュニケーション学部学生数は、教職課程を設置しているグローバル・コミュニケーション学科 英語コースの学生数、総合リハビリテーション学部学生数は、教職課程を設置している社会リハビリテーション学科の学生数、栄養学部

学生数は、教職課程を設置している栄養学科管理栄養学専攻の学生数

教員数：教職課程科目担当（「教育の基礎的理解に関する科目等」ならびに「教科及び教科の指導法に関する科目」の教職専任教員数の合計）

学部	免許状校種教科	教職課程科目担当者数 (教職・教科とも)	教員数
法学部	中学校教諭一種 (社会)	26名	36名
	高等学校教諭一種 (地歴)	10名	
	高等学校教諭一種 (公民)	25名	
経済学部	中学校教諭一種 (社会)	21名	27名
	高等学校教諭一種 (地歴)	11名	
	高等学校教諭一種 (公民)	20名	
経営学部	中学校教諭一種 (社会)	17名	29名
	高等学校教諭一種 (公民)	16名	
人文学部	中学校教諭一種 (社会)	17名	27名
	中学校教諭一種 (国語)	13名	
	中学校教諭一種 (英語)	12名	
	高等学校教諭一種 (地歴)	14名	
	高等学校教諭一種 (公民)	13名	
	高等学校教諭一種 (国語)	13名	
	高等学校教諭一種 (英語)	12名	
心理学部	高等学校教諭一種 (公民)	17名	21名

現代社会学部 (現代社会学科)	中学校教諭一種 (社会)	18名	22名
	高等学校教諭一種 (公民)	17名	
現代社会学部 (社会防災学科)	中学校教諭一種 (社会)	12名	22名
	高等学校教諭一種 (公民)	12名	
グローバル・コミュニケーション学部 (グローバル・コミュニケーション学科英語コース)	中学校教諭一種 (英語)	22名	19名
	高等学校教諭一種 (英語)	22名	
総合リハビリテーション学部 (社会リハビリテーション学科)	中学校教諭一種 (社会)	17名	42名
	高等学校教諭一種 (公民)	16名	
	高等学校教諭一種 (福祉)	22名	
栄養学部 (栄養学科 管理栄養学専攻)	栄養教諭一種	11名	26名
法学研究科 法学専攻 修士課程	中学校教諭専修 (社会)	20名	21名
	高等学校教諭専修 (公民)	20名	
法学研究科 国際関係法学専攻 修士課程	中学校教諭専修 (社会)	6名	6名
	高等学校教諭専修 (公民)	6名	
経済学研究科 経済学専攻 修士課程	中学校教諭専修 (社会)	23名	23名
	高等学校教諭専修 (公民)	23名	
経済学研究科 経営学専攻 修士課程	中学校教諭専修 (社会)	20名	20名
	高等学校教諭専修	20名	

	(公民)		
人間文化学研究科 人間行動論専攻 修士課程	中学校教諭専修 (社会)	7名	9名
	高等学校教諭専修 (公民)	7名	
人間文化学研究科 地域文化論専攻 修士課程	中学校教諭専修 (社会)	4名	13名
	中学校教諭専修 (国語)	4名	
	中学校教諭専修 (英語)	5名	
	高等学校教諭専修 (地理歴史)	4名	
	高等学校教諭専修 (国語)	4名	
	高等学校教諭専修 (英語)	5名	
栄養学研究科	栄養教諭専修	13名	27名

## 卒業者の現況

課程等（通学・通信・大学院） 令和6年度卒業生（令和7年5月1日現在）

教科	免許種	就職先状況					
		小学校		中学校		高等学校	
		正規	他	正規	他	正規	他
社会	中学校一種			1	6		
国語	中学校一種			8	0	0	0
英語	中学校一種					0	0
地理歴史	高校一種					0	1
公民	高校一種					0	0
国語	高校一種					0	0
英語	高校一種					0	0
福祉	高校一種					1	0
栄養	一種						
その他		0	1	0	0	1	1
合計		0	1	9	6	1	1

## 2 特色

神戸学院大学（以下、「本学」という。）を構成する 10 学部・8 研究科のうち、9 学部・4 研究科で教職課程を開設している。2025 年度は 435 名の学生が教職課程を履修しており、そのうち、取得可能な教員免許状の種類が最も多い人文学部の履修者が 186 名と約 4 割を占めている。

本学の特色として、教職課程の教育の質の向上を目的として、2013 年 4 月に「教職教育センター」を開設した。同センターでは、教員の養成に係る教育の質の向上を目的として、次の 3 つの取り組みを行っている。

第 1 は、教員を志望する学生の実践的スキルのサポートである。具体的な施策として、両キャンパスに「教職教育サポート室」を開設している。「教職教育サポート室」には小学校・中学校及び高等学校で実際に教鞭を執っていた経験豊富な指導員を両キャンパス合わせて 11 名、学生が目指す免許状・校種・教科のサポートが提供できるよう免許教科ごとに日替わりで配置している。指導員は主に、学生の相談対応、模擬授業及び教員採用試験対策指導を行うほか、教職関係図書・雑誌といった学生が自由に使える自学自習用の参考書や問題集のアップデートや、プリンタや机・椅子等の学習環境を維持するための整備等を行っている。また、教員採用試験の更なる合格者数の増加を目的に、主に夏期休暇や春期休暇を利用して、「教員採用試験対策講座」、「学力養成講座」、「模擬授業練習会」等を複数回繰り返し実施している。これらの開催案内は教職課程履修者向けに学内情報サービスや Moodle で周知を図ると共に、担当する教員の授業においても周知する体制を取っている。なお、本取り組みは 2020 年度から始めており、参加学生数は年々増加傾向にある。また、学生から開催期間の延長を希望する声が多いため、本講座の需要の高さが伺える。これらの講座等は既卒者にも開放しており、非常勤講師として勤務していた既卒者が受講後に正規教員に合格した実績もある。

第 2 は、教職課程の教育研究活動の支援である。研究成果共有の機会として、研究紀要「教職教育センタージャーナル」を年一回発行し、教員の実践的・理論的な研究活動の成果たる論文を発表・蓄積し、もって、教員教育の質の向上を図っている。

第 3 は、他大学との協力提携である。神戸親和大学との提携による小学校教諭一種免許状取得プログラムを開設しており、本学では課程認定を受けていない小学校教諭一種免許状を卒業時に取得することができる。直近 3 年の実績は、2025 年度の登録者数が 4 名、2024 年度の登録者数が 5 名、2023 年度の登録者数が 6 名となっている。また、本プログラムを通して、小学校教諭一種免許状を取得した学生が採用試験に合格し、小学校教諭として勤務した実績もある。

## II 基準領域ごとの教職課程自己点検・評価

### 基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

#### 基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標を共有

##### 〔現状〕

各学部・研究科において「教員養成の理念」、「養成したい教員像」及び「理念を実現するための教員養成の構想」を定め、ホームページにて公表している。（資料 1-1-1）

人文学部と栄養学部を例にして、以下に記載する。

#### 1. 人文学部

##### 「教員養成の理念」

人文学部人文学科では、人間の行動と文化ならびに人間を取り巻く各種の環境に関して、基礎的能力としての幅広い知識と教養を身につけた卒業生が、学校現場において、「知識」を「知恵」に転換できるような参加型授業を通して、生徒の「生きる力」を育む教育的貢献を果たすことを、人材養成の目標の一つとしている。

##### 「養成したい教員像」

前述の理念を礎として、次のような教員を養成する。

1. 人間行動およびその文化所産との有機的関連をそれぞれ理解し、幅広い知識および教養を身につけ、さまざまな問題に柔軟で的確に対応することができる教員
2. 多様な学問領域を学んできたことを授業や生徒指導に生かして、生徒の個性や興味の伸長をはかることができる教員
3. コミュニケーション能力に優れ、生徒、教員、保護者及び地域住民と適切な人間関係を築くことができる教員
4. グローバルな視点を持ち、社会の変化に対応して、絶えず最善の教育を探求し、実践することができる教員
5. 生涯にわたって学び続けようとする意欲のある教員

##### 「理念を実現するための教員養成の構想」

教員養成の理念を実現するために、次のような教育課程を構築している。

「基礎専門教育科目」において、人間をとりまく文化や社会に関する基礎知識を領域ごとに理解させ、少人数の演習科目をとおして、大学での学修に必要な技能や知識を身につけさせる。「専門教育科目」において、専攻するコースでは、領域の学問分野の専門知識を集中的、体系的に理解させ、専攻以外のコースでは、領域の知識を幅広く学ばせ、豊かな教養を身につけさせる。また、実習でのフィールドワークや体験学習によって、深い専門知識と実践的な技能を連結させる。加えて、「卒業研究」では、2年次よりはじまる専攻演習をとおして、情報収集力・情報発信力・分析力を獲得し、習得した深い専門知識と実践的な技能を用いて、自らが設定した課題を追求し、その成果を卒業研究にまとめさせる。

このように、人間の行動と文化ならびに人間を取り巻く各種の環境に関して、基礎的能力としての幅広い知識と教養の獲得を目指すことにより、卒業後、学校現場で「知識」を「知恵」に転換できるような参加型授業を通して、生徒の「生きる力」を育む教員を輩出する。

## 2. 栄養学部

### 「教員養成の理念」

栄養学部では、栄養学に基づいた疾病予防及び健康増進に必要な専門分野の知識を身につけた卒業生が、学校現場に進み、栄養や食の大切さに関心のある児童生徒を育成する教育的貢献を果たすことを、人材養成の目標の一つとしている。

### 「養成したい教員像」

前述の理念を礎として、次のような教員を養成する。

1. 児童生徒の健康の保持増進のために、家庭への支援も含めて個別の事情に応じた相談指導を行うことができる教員
2. 学校給食の時間や学級活動、総合的な学習の時間などにおいて、学級担任や教科担任と連携しつつ食に関する指導を行うことができる教員
3. 食に関する指導のコーディネーターとして、保護者への啓発や学校内外を通じて教職員や関係機関等との連携を密接に図り、食に関する指導を効果的に進めることができる教員

### 「理念を実現するための教員養成の構想」

教員養成の理念を実現するために、次のような教育課程を構築している。

栄養学に基づいた疾病予防及び健康増進に必要な専門分野の知識を修得するために、1、2年次では、社会人として必要な基礎知識や語学を身につけるため「共通教育科目」を配置し、栄養学の基礎を学ぶため「基礎科学群」、専門領域の基盤となる「専門基礎分野」を配置することによって、調和のとれた教養教育と基礎教育を体系的に実施して、良識のある管理栄養士の基盤を構築する。3年次からは、管理栄養士に必要とされる専門性の高い知識・技能と総合的な能力を養う「専門分野」を教授し、管理栄養士専門教育に加え、臨床現場で管理栄養士に要求される諸々の能力や考え方を習得させる。病院・保健所・福祉施設・給食会社などにおける「臨地実習」は、学術的知識を修得したのちの4年次に配置している。「臨地実習」において実際の現場の体験を積むことによって、一層実践的な能力を培うことができる。加えて職場での協調性や社会性が学ばれる。さらに、最終学年では、7つある部門の一つに配属し、実験や調査、教員と学生間の密接なコミュニケーションを通して課題研究がなされ、専門知識が深められる。

このように、栄養学に基づいた疾病予防及び健康増進に必要な専門分野の知識の獲得を目指すことにより、卒業後、学校現場で栄養や食の大切さに関心のある児童生徒を養成できる教育力を持つ教員を輩出する。

### 〔優れた取組〕

各学部の「教員養成の理念」、「養成したい教員像」及び「理念を実現するための教員養

成」に適った学生を育成できるよう、教職課程カリキュラムに学部専門教育科目を取り入れている。

また、教育実習中に教員が実習校を訪問する指導訪問においては、原則教職課程の教員ではなく、学部の指導教員が実施し、学部専門教育科目の時間割を決定する際は教職課程科目と調整のうえ決定する等、教職教育センターと各学部が連携のもと運営を行っている。

#### 〔改善の方向性・課題〕

各学部・研究科では、「教員養成の理念」、「養成したい教員像」及び「理念を実現するための教員養成の構想」を定めているものの、学生への周知が不足しており、理解が及んでいない。そのため周知方法の工夫や改善を図り、周知・理解を含めていくことが課題であり、対応を検討している。

#### ＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料1-1-1：本学HP (<https://www.kobegakuin.ac.jp/cte/ug/>)

### 基準項目1-2 教職課程に関する組織的工夫

#### 〔現状〕

全学的な組織である「教職教育センター」のもとに「教職教育センター委員会」を設け、教職課程の運営に関する事項について審議し決定している。(資料1-2-1) また、「教職教育センター」の下部組織として、教職課程を有する学部・研究科の教員を中心に構成する「教職課程小委員会」を設け、教職課程におけるカリキュラムや履修及び単位認定等について検討している。

また、「教職教育センター自己点検評価委員会」を設置し、中期行動計画に基づき点検・評価を実施しており、定期的に(原則2か月に1回以上)「教職教育センター自己点検評価委員会」を開催しているほか、教職課程年間業務スケジュールに基づき、適宜進捗状況を確認し計画通りに進むようスケジュールや業務内容の見直しならびに修正を図っている。

加えて、教職課程の中期行動計画に基づいて、自己点検・評価を行うことにより、時代の変化や学生の需要に合った教職課程編成に取り組んでいる。(資料1-2-2、資料1-2-3)

#### 〔優れた取組〕

「教育の基礎的理解に関する科目等」「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち、「教科及び教科の指導法に関する科目」については、ほとんどの科目が学部の専門教育科目として卒業所要単位数に算入ができ、「大学が独自に設定する科目(大学院)」についても、研究科の授業科目として修了するための所要単位数に算入ができる。学部や研究科の専門知識を学びながら教員免許状取得に必要な単位を修得できるため、教育の基礎知識だけではなく、学部の専門知識も教育現場に活かすことができる学生の育成を行っている。(資料1-2-4)

## 〔改善の方向性・課題〕

コロナ禍の影響を受け、「教職課程小委員会」の開催がメール会議主体となったが、メール会議のために委員間の繋がりが少ない点や活発な議論がなされにくい点が課題となっていた。そのため、令和7年度は対面での開催も復活し、議題の内容や緊急性によって対面とオンラインを使い分けて開催した。また、教職課程履修者の増加や教員採用試験合格者数の増加のためには学部の専門教育科目が教員免許取得に必要な科目になっていることから各学部の理解と協力が必要であるため、教職課程を設置している各学部との連携を強化していくことが課題である。

## ＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料1-2-1：神戸学院大学教職教育センター委員会規程
- ・資料1-2-2：神戸学院大学自己点検評価委員会規程
- ・資料1-2-3：教職課程年間業務スケジュール
- ・資料1-2-4：神戸学院大学教職課程履修規則

## 基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

## 基準項目2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

## 〔現状〕

教職課程履修者には、学年ごとに履修ガイダンスや介護等体験に関するガイダンス、教育実習事前・事後指導を行い、教員免許取得までの過程の説明や教職課程履修に関するサポートを行っている。実施しているガイダンスは以下の通りである。（資料2-1-1）

学 年	実施時期	サポート内容
1 年次	4 月	教職課程履修ガイダンス
	12 月	小学校教諭一種免許取得プログラム申込説明会
	3 月	教職課程履修ガイダンス（新2年次）
2 年次	11 月	介護等体験申込説明会
	11 月	教育実習校開拓ガイダンス（グローバル・コミュニケーション学部）
	3 月	教職課程履修ガイダンス（新3年次）
3 年次	4 月	介護等体験直前ガイダンス
	4 月	教育実習校開拓ガイダンス
	7 月	教育実習事前指導（KAC）
	11 月	教育実習事前指導（KPC）

---

	前年度	教育実習事前指導
	3月	
4年次	7月	教育実習事後指導（KAC）
	11月	教育実習事後指導（KPC）
	11月	教員免許状一括申請説明会

---

各ガイダンスでは、毎回出席状況を確認しており、欠席をした学生には教員や事務職員が個別で対応し、指導を行う。

教育実習要件科目を定めており、3年次終了時まで、または教育実習予定年度の前年度までに該当科目の単位を修得できなければ教育実習への参加を認めていない。（資料2-1-1）

教職課程を履修する学生は、学修成果・教育成果の把握・可視化のために「履修カルテ」を使用している。「履修カルテ」では教職課程の各授業において何を学んだか、そこから教職に関してどのような問いをもってどのような考察を行ったか等を振り返り、自らの学修の発展と教員免許状取得のために必要な科目・単位の把握に用いている。また、4年次後期開講の「教職実践演習」において、教員が学生の教職課程学修状況を把握するために活用し、指導に役立てている。（資料2-1-2）

また、本学での学修をより深く研究・実践を行うことが可能な取り組みとして、教職課程を履修している学生に対して、兵庫教育大学大学院への指定校推薦入学者選抜試験制度を設けている。大学院への進学希望者は教職課程の教員との面談ならびに兵庫教育大学大学院での事前面談のうえ、許可された学生が指定校推薦入試に出願することができる。（資料2-1-4）この制度を利用して、2025年度は7名の学生が進学した。

さらに、神戸親和大学との提携による小学校教諭一種免許状取得プログラムを開設している。提携大学に納める科目等履修に係る費用等が別途必要となるが、2年次から卒業までの3年間で、テキストを利用した自宅学習及びスクーリングを併用する通信教育により、本学では課程認定を受けていない小学校教諭一種免許状を卒業時に取得することができる。（資料2-1-5）

卒業後に継続して教員免許状の取得を希望する者には、科目等履修生制度の中に教職課程を設け、履修が許可された場合、卒業後も継続して学修及び指導を受けることが可能であり、教職教育センターが実施する各種講座等に参加することも可能である。

### 〔優れた取組〕

「教育実習事前指導」では、本学の教員以外に現職の卒業生を招き、講義やパネルディスカッションを通して、教育実習での体験や教育実習の際に必要な知識や心構え、教材研究等を学ぶ機会を設けている。

「教育実習事後指導」では、実際に教育実習に参加した4年次生のみならず、3年次生にも出席を課し、教育実習の経験を共有する場としている。3年次生にとっては、4年生の教育実習の振り返りを受け、教育実習のイメージを掴み、教育実習に関する不安を解消できる機会となっている。

文部科学省が示す「GIGA スクール構想」では、児童・生徒に向けた1人1台のタブレット端末配布、2024年度よりデジタル教科書の本格導入を実施している。そのため、教職課程を履修している学生が、教育実習及び教育職員として就職後、即座にデジタル教科書を活用できるように、教職課程科目の授業及び教職教育サポート室において、学生がデジタル教科書を使用できる環境整備を図っている。具体的には、2022年度にタブレット端末を追加導入し、2023年度にデジタル教科書を導入した。更に2024年度は電子黒板2台を導入することでデジタル教科書の活用を促した。また、教職教育サポート室では、模擬授業練習会として、ICT教育支援ツール「ロイロノート」を使った現役教員による授業体験や、実際にタブレットを活用した模擬授業を実施している。

2022年度からは「教職ハンドブック」を作成している。「教職ハンドブック」は教職課程の履修から教員免許状取得、教員採用試験合格、教育大学大学院進学、教員としての新着任までについて、学生の学びの手引き書として分かりやすく解説したハンドブック（総ページ数約160ページ）である。本ハンドブックは、「教職教育サポート室」指導員の現場での体験を基にして、より積極的に学生にアプローチするものであり、また、教職課程を志す学生が疑問に感じている項目を中心にQ&A形式で作成することで、学生の不安を解消することも目的としている。また、「教職ハンドブック」は学生への参考資料としてだけでなく、各学部・研究科の教員にも配布することで教員への情報発信及び共有の役割も果たしている。（資料2-1-3）

### 〔取り組み上の課題〕

各年次において複数回ガイダンスを実施し、教員免許状取得のための仕組み及び単位数等を説明しているが、理解が不十分な学生が見受けられるため、学生がより正確に理解できるように説明資料に工夫を重ねることやその後のフォロー体制が課題である。

また、デジタル教科書や電子黒板を導入しているが、活用が一部の教員や指導員に留まっているため、活用を広げていくことも課題である。

### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料2-1-1：資格に関する履修の手引
- ・資料2-1-2：履修カルテ
- ・資料2-1-3：教職ハンドブック
- ・資料2-1-4：兵庫教育大学大学院学校教育研究科指定校推薦制度事務処理要領
- ・資料2-1-5：小学校教諭一種免許状取得プログラム説明資料

## 基準項目2-2 教職へのキャリア支援

### 〔現状説明〕

中学校及び高等学校で実際に教鞭を執っていた経験のある指導員が、免許教科ごとに日替わりで教職課程を履修する学生をサポートする「教職教育サポート室」を2013年度から設置している。2020年度からは教職課程の3・4年次生に「メンター制度」を導入しており、「教職教育サポート室」の指導員による長期的な個別指導を通して、教員採用試験に合

格する学力や教師としての資質を高めている。

「メンター制度」は教職教育サポート室の指導員をいわゆる各学生の指導教員とすることで、学生の悩みや進路に関する相談、学習方法及び教員採用試験の合格への導きとなる仕組みである。指導員と学生がコミュニケーションを繰り返すことで、継続的かつきめ細かい指導を行っている。

2025年度には教員採用試験の集団討議や面接対策として「教職ワークブック」を発行した。本書は、現任教員である本学卒業生が、教員採用試験に際して必要な知識や技術についてまとめた冊子をもとに、本学教員ならびに教職教育サポート室指導員が作成したものであり、在学生在が教員採用試験対策として活用した。なお、本ワークブックには面接で予想される題目や質問に対してどのように自身の考えを組み立てて回答するかといったことが書かれており、実践的な内容となっている。

### 〔優れた取組〕

「教職教育サポート室」では、5月に教員採用試験1次対策講座である集団討議及び集団面接の対策講座、8月には教員採用試験2次対策講座及び模擬授業練習会、11月には学力養成講座、2月には教員採用試験対策講習会及び模擬授業練習会を開催した。各講座の主なプログラム内容は以下のとおりである。（資料2-2-1）

- 教員採用試験1次対策講座（集団討議特訓）（5月）
  - ・ 集団討議、集団面接の心構え及び実践
  - ・ 教職教養、専門科目等の対策
- 教員採用試験2次対策講座及び模擬授業練習会（8月）
  - ・ 個人面接・集団面接指導
  - ・ 模擬授業指導
  - ・ 小論文添削指導
  - ・ 卒業生の現任教員を囲む会
- 学力養成講座（11月）
  - ・ 1次試験の内容確認、心構え
  - ・ 一般教養・専門科目対策
  - ・ 各教科の対策
- 教員採用試験対策講習会及び模擬授業練習会（2月）
  - ・ 外部講師による教員採用試験対策講習
  - ・ 模擬授業指導
  - ・ 授業づくりについての講習
  - ・ 教育行政・教育時事対策
  - ・ 求められる教師像
  - ・ 集団面接、集団討論、場面指導についての講習
  - ・ 模擬集団討論デモンストレーション
  - ・ 4年次生による合格者体験談

### 〔改善の方向性・課題〕

教育実習期間が一般企業等の就職活動の期間と重複する傾向があるため、本学は就職活動を理由に教育実習期間の変更及び教育実習の欠席は認めていないことを事前に学生に周知している。そのため、教育実習を諦め一般企業等への就職活動を選択する学生も少なくはない。このような学生に対するフォロー体制が課題である。

また、2023年度から教員採用試験の実施時期の前倒し及び3年次受験を開始した自治体があり、実施時期にあわせたより適切な指導を行っていく必要があると考える。

### ＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料2-2-1：教職教育サポート室対策講座案内文書

## 基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

### 基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

#### 〔現状〕

教職課程に関する科目は「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」、「教育の基礎的理解に関する科目等」、「教科及び教科の指導法に関する科目」、「栄養に係る教育に関する科目」及び「大学が独自に設定する科目」に分類される。

「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」は共通教育科目及び専門教育科目で構成されており、全ての学部において卒業要件単位に含まれる。

「教育の基礎的理解に関する科目等」は一部を除き、資格に関する科目として開設しており、卒業要件単位や履修制限には含まれず、取得を希望する免許状校種教科によって修得すべき最低単位数が異なる。

「教科及び教科の指導法に関する科目」は、学部単位で校種及び免許教科ごとに異なる科目が定められており、資格科目や各教科の指導法を除く多くの科目は、卒業要件単位に含まれる。

そのため、卒業所要単位の修得に加えて「教科及び教科の指導法に関する科目」の単位を修得することで、教員免許状取得に必要な単位数を満たしやすいカリキュラムとなっている。(資料1-2-4)

#### 〔優れた取組〕

卒業と同時に教員免許状を取得できるように、複数の学部に通して開講する教職課程の必修科目と各学部の専門教育科目の必修科目の時間割が配当年次同士で重複しないように毎年度時間割の調整を行っている。

### 〔改善の方向性・課題〕

配当年次における教職課程の必修科目と学部の専門教育科目の必修科目の時間割が重複

しないように毎年度調整しており、事前に当年度の教職課程の時間割を他学部に共有している。しかしながら、教職課程の時間割が確定するのは学部専門教育科目や共通教育科目の時間割が凡そ確定した後のため、教職課程の科目の担当教員が変更となる場合に開講可能曜日時限が限定されてしまい、担当教員の確保が困難になる。更に、採用までの諸手続きを短期間で進めなければならないことが課題である。

また、教職課程の科目については一部の科目を除き、履修制限には含まれないことから単位の実質化を担保する必要がある。そのため、2024年度から履修ガイダンスにて説明を行っているが、単位数の上限設定制度が形骸化しないよう、よりきめ細やかな学生への指導体制を検討していく必要があることも課題である。

#### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料1-2-4：神戸学院大学教職課程履修規則

### 基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

#### 〔現状〕

##### <実践的指導力育成>

4年次後期開講の「教職実践演習」においては、教育実習等で得られた実践的指導力を、教育実習の経験や履修カルテを活用し振り返る。さらに、学生各自の課題を明らかにし、克服のための専門性を向上させ、教員としての表現能力（説明力・板書力など）等の能力を育成している。

##### <地域との連携>

神戸市の「神戸市立学校学生スクールサポーター制度」への参加希望者を学内で募り、神戸市立の義務教育学校に派遣し、学校教育活動を支援するとともに、将来教員となる人材の意識や資質の向上につなげている。なお、参加にあたっては学内での面談及び事前指導を実施している。（資料3-2-1）

また、本学附属中学校での「学習チューター」制度を実施している。「学習チューター」とは生徒の自習時間の監督と、生徒の質問や相談への対応を行う有償の活動であり、実際の現場で生徒と交流することで、教育現場を経験できる貴重な機会となっている。

##### <教育実習校との連携>

原則として、すべての教育実習校に実習生の指導教員が実習期間中に訪問し指導する体制（教育実習指導訪問）を構築しており、指導教員が学校長や実習校の担当教員から実習生の状況確認をすることで信頼関係を構築している。

##### <他大学との連携>

阪神地区私立大学教職課程研究連絡協議会に加盟している。私立大学における教員養成の社会的責務とその役割に鑑み、相互に交流・協力することによって教職課程の課題解決・充実・発展を目的としており、本学は2022年度から2023年度まで事務局校を担当した。

#### 〔優れた取組〕

「教職実践演習」では、現職の中学校・高等学校の教員及び教員経験者を授業に複数回招

き、実際の教育現場における指導法を学び、理解を深める機会を設けている。【改善の方向性・課題】

昨年度、教育実習指導訪問の際の実習校への訪問内容及び、実習生への指導内容をまとめた「共通理解事項」がないため、訪問する教員により実施内容が異なっていることが課題となっていた。これに伴い、実習校との良好な関係性を築くこと及びより良い学生指導ができるように、教職課程小委員会を通して核となる共通事項の洗い出し、更にこれら以外の事項においても方針を検討したうえで「共通理解事項」を作成し、2024年度より依頼時に指導教員への共有を行った。そのことにより、教育実習指導訪問に関する質問が減少し、より円滑に訪問を実施いただけるようになったが、各学部の指導教員が訪問に行くことについて理解を得難いことがあるため、引き続き課題としたい。

#### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-2-1：神戸市立学校 学生スクールサポーター制度 手引き

### Ⅲ. 総合評価

本学では、中学校及び高等学校の校種を中心に9学部（10学科）・4研究科において教職課程を開設している。他大学と連携し、小学校教員免許の取得も可能にしており、さらなる専門的学びを深めるために大学院進学を実現するなど、学生の選択肢を広げる仕組みを整えている。教職教育センターを中心に教員養成プログラム、教職課程カリキュラム等の検討等を総括的に行っている。

教職教育センター自己点検評価委員会による自己点検・評価の結果、今後の課題はあるものの、おおむね良好に運用されていると評価できる。

今後は本自己点検評価報告書に記載した取り組み上の課題について、次のとおり改善検討していくとともに、本学教職課程の特色を更に生かしていけるよう、毎年継続した取り組みを行っていく。

基準領域1「教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み」では、各学部において、教員養成の理念・養成したい教員像・理念を実現するための教員養成の構想をガイダンス等で学生に周知し、学生の理解を深める。

「教職課程小委員会」において、過去の教職課程履修者数や教員採用試験合格者数を提示し、教職課程履修者の増加や教員採用試験合格者の増加に向けた取り組みについて教職課程を設置している各学部との連携を強化していく。

基準領域2「学生の確保・育成・キャリア支援」では、ガイダンス資料の見直しや「教職ハンドブック」を活用し、学生が正確に教員免許状取得のための仕組み及び単位数等を理解できるように工夫を重ねていく。

教育実習を諦め一般企業等への就職活動を選択する学生に対して、今後教員免許を取得する場合の必要単位数や手続き、通信制大学等の提案を含めたサポートを行う。

基準領域3「適切な教職課程カリキュラム」では、教職課程の時間割が確定する前に、資格科目の担当教員に出講可能な曜日時限を伺い、把握する。

教育実習指導訪問において、実習校との良好な関係性を築くため、また、より良い学生指導ができるように「共通理解事項」を作成し、2024年度実施分より依頼時に指導教員に共有したことで、概ね理解を得ることはできた。しかしながら、未だに一部の教員の理解を得られていないため、引き続き理解いただけるよう異なるアプローチを検討したい。

#### IV 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

令和8年2月13日 本学学長（内部質保証推進委員会 委員長）より教職教育センター及び教職教育センター自己点検評価委員会へ「2025（令和7）年度教職課程自己点検評価報告書」の作成を依頼した。

令和8年4月17日 教務センター（教職課程担当）にて「2025（令和7）年度教職課程自己点検評価報告書案」を作成した。

令和8年4月20日～4月30日

教職教育センター及び教職教育センター自己点検評価委員会において、「2025（令和7）年度教職課程自己点検評価報告書案」を検証ならびに修正を行い、「2025（令和7）年度教職課程自己点検評価報告書」を作成した。

令和8年5月1日 本学学長（内部質保証推進委員会 委員長）による総評「大学としての全体評価」を執筆した。

令和8年6月11日 本学内部質保証推進委員会において「2025（令和7）年度教職課程自己点検評価報告書」の完成及び公表について教務センターより報告を行った。

令和8年6月18日 本学ウェブサイトにおいて、「2025（令和7）年度教職課程自己点検評価報告書」を掲載した。